



「絵本とわらべうたの会 in しほかわ」②

日時 12月7日(土) 10:00~11:00

場所 芝川公民館 芝川子どもふれあい広場

小学生も参加できる土曜日の時間帯に、絵本とわらべうたの会を行います。当日参加した子どもたちの年齢に合ったわらべうたと絵本を楽しみます。

少し大きな動きのあるわらべうたも、ぜひ親子で体験してみてください。

「絵本とわらべうたの会」2024年度⑧

日時 12月10日(火) 10:00~11:00

場所 西公民館 1階 集会室

就園前の子とお母さんを対象にわらべうたで楽しいひとときを過ごします。赤ちゃんもお母さんのうた声と一緒にゆっくり身体をゆすられて楽しめます。絵本の読み聞かせもあります。

必要な方は敷物やバスタオルをご用意ください。

市民読書サポーターのいる日程 12月

市立中央 図書館 (10~12時)	7日(土)	14日(土)
	21日(土)	
西公民館	10日(火)	10:30~11:30

寿大学&寄り合い処

市内各地域で開所されている寄り合い処や公民館事業の寿大学などへ呼んでいただき、おはなしを語ったり、わらべうたや手遊びをしています。

耳から聞くおはなしは、子どもだけでなく、どの世代の方も想像する楽しさを味わうことができます。

高齢の方中心の会では、昔話などから長すぎないお話を選び、聞きとりやすいようゆっくりはっきり発声して語るよういつも以上に気をつけています。お話の中に昔なじみの言葉や物、身近な鳥や動物などが出てくるとちょっと口元をゆるめたり、主人公の行いに目を大きく開いたり、声は出ずともお話を楽しんでくださっている様子が表情からよくわかります。

お話の合い間には、わらべうたや手遊びで体や指を動かします。指の動きと一緒に声を出すこともあります。詩(阪田寛夫「きまりことば」)を紹介して一緒に声を出して読んだこともありました。

お話を聞いて想像すること。手指を動かすこと。笑うこと。思いっきり声を出すこと。集まった皆さんと楽しく元気に過ごせる会を心がけています。

(市民読書サポーター 大橋美佐子)

おすすめの本の紹介

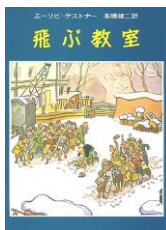


楽しいスケート遠足

ヒルダ・ファン・ストックム 作・絵  
ふなとよし子 訳  
福音館書店

低地に広がるオランダの運河は、本格的な冬がくると凍りつき、長い長い氷の道ができる。エベルトとアフケの双子の兄妹が通う学校の子どもたち16人は、先生に引率されて一日がかりのスケート遠足に出かける。女の子たちは先生の持つ長いポールにつかまり、男の子たちははてんで、きらきら光る運河の上を飛ぶようにすべっていく。途中、運河の両側に出ているお店で、温かいココアとおいしいケーキでひと休み。ところがその後、エベルトが割れた氷の穴に落ちてしまい……。

作者自身によるカラー見開きの挿絵が、日本ではなじみのないスケート遠足の様子を伝えてくれる。(高学年以上向き)



飛ぶ教室

エーリヒ・ケストナー 作  
高橋健二 訳  
岩波書店

舞台はドイツの寄宿制男子高等学校。クリスマスを前に、5人の少年が仲間のヨーニーの書いた劇「飛ぶ教室」の稽古に励んでいる。そこへ同級生のひとりが、実業学校の生徒に襲われて人質にされたという報が入り、少年たちは人質救出作戦を展開する。この事件がきっかけとなり、みんなの敬愛する舎監のベク先生は消息を絶っていた親友と感動的な再開をすることができた。

劇の上演前日、ちびのウリーは臆病を克服するために高い梯子から飛び降りて骨折する。一方、マルチンは休暇に家に帰るための旅費がなくてつらい思いをしていた。

性格や境遇に悩みながらも、師弟愛と友情を糧に成長していく少年たちの物語。(中学生以上向き)

\*裏面もご覧ください\*